卵巣漿液性癌における腹水検体と組織検体を用いた予後予測、治療効果予測についての検討

## １．研究の対象

２０１４年４月以降に、当院で卵巣漿液性癌と診断された症例です。

## ２．研究目的・方法

卵巣漿液性癌は、化学療法の効果が高いといわれていますが、再発し、化学療法に耐性を獲得してしまうと治療が難しくなります。この化学療法耐性のメカニズムについては様々な研究がなされていますが、その原因は明らかになっていません。

卵巣癌は、手術以外の方法による生検が不可能であり、手術によって検体を採取しなければ組織学的な診断ができないという特徴があります。しかし、卵巣癌は腹水が貯まりやすいため、比較的体に与える影響の少ない腹腔穿刺により腹水を採取して、腹水に含まれる細胞を検査することで卵巣癌のタイプ（組織型）を推定可能です。そこで、腹水検体を用いて細胞の塊を作り、そこから得られる情報から、化学療法の効果を予測することが可能であれば、卵巣癌患者の治療に関する有益な情報が得られると考え、今回の研究を計画しました。研究期間は学校長承認後から令和５年１２月３１日までです。

## ３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術記録、カルテ番号等

試料：組織検体、腹水検体、採血検体等

## ４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
防衛医科大学校 産科婦人科学講座
〒359-8513 埼玉県所沢市並木３－2
電話：04－2995－1511（内線 2363）
FAX：04－2996－5213
研究責任者：防衛医科大学校　産科婦人科学講座　講師 宮本守員

----------**以上**